あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つ よ し

―第３３号―

令和５年１２月４日
平戸市立津吉小学校
文責　校長　田川定司

季節は最高の教材

朝の寒さが冬の訪れを感じる季節となりました。校庭のイチョウやモミジも落ち葉となって降り積もっています。先日は、２年生の子供たちが、芋ほりを体験し、収穫したお芋を焼き芋にして食べました。人は常に自然と共に生き、自然のありがたさを感じながら命をいただいて生きています。生きていく上で季節の変化を感じることは必要なことです。

季節の変化は、貴重な学びの教材です。鳥や虫の鳴き声、旬の食べ物の味、年中行事や行事食など四季を感じるとき、人は五感を大いに働かせ、情感豊かな心＝情操が育成されます。しかし、時間に追われて生活する現代社会では、季節感を楽しむことから遠ざかることも多いようです。衣食住が快適で便利になった一方、野菜や果物、魚の「旬」が見えにくくなっています。季節感は、経験なしでは感じられません。学校生活では多くの季節感を体験できる活動を取り入れています。ぜひ御家庭でも、季節を大いに楽しんでください。「知っている」「やったことがある」という経験や自信は、自己肯定感を育みます。

福祉体験学習

１１月２１日に、５年生の総合的な学習の時間の授業で、「わだつみの里」の[redacted]様を講師に迎え、「わだつみの里」の入所者の方のこと、働く職員の仕事や施設の設備等について、講話を受けました。

運転手さんありがとうございます

１１月２１日に、芋の栽培などの体験学習でお世話になっているスクールバスの運転手さんを招待して、交流給食を実施しました。運転手さんや自然の恵みに感謝しながら、美味しくいただきました。

入賞おめでとう！！

「家族の絆エッセイコンクール」に平戸市内から９３３点の応募がありましたが、そのうち３０点が入賞し、１１月２３日（木）に平戸文化センターで表彰式がありました。津吉小からは、下記の４名の児童が入賞しました。入賞作品を裏面に掲載していますので御覧ください。

優秀賞	[redacted]

ばあばのおいしいごはん

[redacted]

ばあばへ
いつも、おいしいりょうりをつくってくれてありがとう。
わたしは、ばあばがつくってくれるので一ばん目にすきなのはコロッケだよ。
なぜかと言うと、コロッケの中にチーズが入っているのと、入っていないのがあって、ゲームみたいになるのがたのしいよ。
二ばん目にすきなのは、カレーだよ。
なぜかと言うと、手つだいでカレーのルーをわるのがたのしいし、つくったときたべたらおいしかったからだよ。これからもおいしいりょうりをつくってね。

ぼくのおばあちゃん

[redacted]

ぼくのおばあちゃんは、今入院中です。今年の5月に「いのちがあぶない」と言われました。ぼくは、それを信じることができませんでした。
家族のみんなで、おばあちゃんに会いに行きました。
おばあちゃんは、こきゅうが苦しそうでかわいそうでした。ぼくは、おばあちゃんを見てすぐに泣いてしまいました。おばあちゃんに「がんばっていきてね」と言いながら手をにぎりました。おばあちゃんも帰る時までずっとぼくの手をにぎってくれてました。
その力はとても強く「生きたい」と言っているようでした。
それからしばらくしておばあちゃんは「きせき」をおこしました。
意しきも戻り元気になったのです。お医者さんからも「おまごさんたちに会えたのがよかったのかもしれないです。」と言われたと、母から聞きました。
ぼくは今は会えないけれど、おばあちゃんが生きているだけでうれしいです。話　もできないけれど、それでも長生きしてほしいとぼくは思っています。
あのときの手のぬくもり、力強さは、今でもぼくの手にのこっています。

なにげない幸せ

[redacted]

なにげない幸せ
ごはんが食べられること
安心してくらせること
学校にかよえていること
友達がいること
洋服があること
お金があること
家族がいること
家があること
水があること
耳がきこえる目が見えること
歩けていること
数えきれないほどあるけれど
これが私の幸せ

母

[redacted]

ぼくは、母のおかげでいまここにいる。
つらいときすぐに「どうかした」ときいてくれる。
自分のきもちがいちばん話せるのは、母だ。
たまにぼくを産んだ時の話をしてくれる。
つらかったけど、うれしかったといってくれる。
それをきいて、ぼくは産んでもらえるってすごく幸せなことなんだとかんじる
大切な命をあずかっているから、一日一日一生けんめい大切にいきよう。
いつもぼくたちを大切にそだててくれて、そしてぼくたちを産んでくれた母が大好きだ